

しゃくやくの輪紋病（新発生）

令和2年6月に、空知地方の露地栽培のしゃくやく（品種「シーイングブルー」）において、株全体の葉に激しい輪紋症状が認められた。令和5年6月にも同管内のしゃくやく（品種「エルササス」）で同様の症状が認められた。その症状から、タバコ茎えそウイルス（Tobacco rattle virus (TRV)）による輪紋病が疑われた。そこで、TRV 特異的プライマーを用いた RT-PCR 法によるウイルス検出を行ったところ、特異的遺伝子の増幅が認められた。得られた遺伝子増幅産物について遺伝子配列の相同性解析を行った結果、既知の TRV と 97%一致した。以上のことから、TRV によるシャクヤク輪紋病と同定した。

本ウイルスは、50 科 400 種以上の植物に感染することが報告されており、国内で自然発生が確認されている植物としてはタバコ、スイセン、アスター、クロッカス、チューリップ、リンドウ、大豆、ほうれんそう、にら、ピーマンがある。伝染方法は、しゃくやくでは主に株分けによる伝染や線虫媒介による土壌伝染である。ナズナでは種子伝染の報告がある。汁液伝染はするが、通常の管理作業による伝染はしにくいとされている。媒介線虫としては、ユミハリセンチュウ（*Trichodorus* 属と *Paratrichodorus* 属）の 11 種ほどが知られている。令和5年8月に発生ほ場の土壌から線虫の分離を試みたが、ユミハリセンチュウは確認出来なかった。

（花野セ・空知農業改良普及センター北空知支所）



しゃくやくの輪紋病（花野セ 佐々木 原図）